



徳島大学病院歯科・歯周病科

湯本浩通診療科長

虫歯で空いた穴から細菌が歯の中へ深く侵入していくと、歯の中の神経や血管を主体とした組織に加えて、歯の根の先とその周囲にまで感染による炎症が生じます。更に



歯の根治療 正確、緻密に

進行すると、歯を支える骨が溶け、膿が溜まり、歯肉が腫れてきます。この状態を放置すると、歯が動いて、噛み合わせが不安定となって、歯の寿命も短くなることで、口の中の機能や審美性に大きな影響が出てきます。

このように、細菌感染によって歯根の中や先端周囲に生じた炎症に対しては根の治療が必要となります。この治療の大きな目的として、「根の中の細菌除去」と「再感染防止のための緊密な封鎖」が挙げられます。しかし、歯の根

は曲がっていることも多く、更に根の中の構造は、木の幹から多くの枝が分かれているように非常に細く複雑であり、肉眼で根の中を直視できないことなどから、治療が困難となり、痛み・腫れや膿が止まらないなどの症状が持続する場合も少なくありません。

このような難治性病変にも詳細に観察することが可能となり、更に、曲がった根管に沿って挿入できる器具や歯質とより強固に接着する材料との併用により、治療効果も上がっています。負担の小さな非外科的処置として、根の中の殺菌などを目的とした

は曲がっていることも多く、更に根の中の構造は、木の幹から多くの枝が分かれているように非常に細く複雑であり、肉眼で根の中を直視できないことなどから、治療が困難となり、痛み・腫れや膿が止まらないなどの症状が持続する場合も少なくありません。

現在は、難治性病変に対して、一般的なレントゲン撮影による平面的な画像診断に加えて、歯根とその周囲の構造を立体的に把握できる歯科用CT撮影が保険適用となりました。また、歯科用顕微鏡により、根の中の深い部分まで

レーザー照射機器、高周波治療器や超音波洗浄器具なども応用されています。このような診査や治療に用いる器具も、必ずしも全ての症例において適応・有効であるとは限りませんので、診査や治療への応用については担当医にご相談ください。